

【第 65 回日本 PTA 全国研究大会仙台大会に参加して】

日頃は、市 P 連の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

本年度も小中学校の PTA の会長・代表者の皆さんと PTA 活動や教育問題に関する情報・意見交換を行い、子ども達の生活・教育環境がより良いものになるよう活動をすすめています。また、活動内容は市 P 連のホームページや会報紙きりりを通してお知らせして行きますので、今後とも松江市 PTA 連合会の活動にご理解ご協力をよろしくお願いします。

さて、8月25日・26日に宮城県仙台市で開催された「第65回 日本 PTA 全国研究大会 仙台大会」の参加報告を簡単にさせていただきます。

今回は東日本大震災の発災後はじめての東北地方で開催された大会でした。1日目は10会場で教育問題や地域、災害、子育てなどのテーマで分科会が開催されました。

今回参加した分科会では研究課題「地域と共にある PTA 活動の在り方を求めて」がテーマでした。基調講演は震災当時、南三陸町立戸倉小学校の校長だった麻生川先生の話でした。海から 300m に位置する学校の避難マニュアル作成で教員と校庭集合後に屋上避難か高台避難で論議になり、答えが出ず校長判断で避難場所を決定することになったそうです。その後 3 階建ての校舎の屋上を越える津波が到達したのですが、マニュアルに書かれている手順を踏まずに高台避難を決定し下校していた 1 名の児童を除く全員が助かったそうです。完璧だと思ったマニュアルも想定外の事態では通用しない。柔軟な判断力が必要だと言う事がわかりました。また、地域の人達は必ず子どもを守ってくれるので、日頃から学校、家庭、地域との連携、顔の見える関係づくりが大切だと言う事を言われていました。これからは地域と共にある PTA のあり方を考えていく必用があると感じました。

文責 会長 原 完次

